



2021年3月期 決算説明会

2021年5月25日
昭和産業株式会社



Agenda

- 1 2021年3月期 業績概要**
- 2 2022年3月期 業績予想**
- 3 中期経営計画20-22の進捗状況**
- 4 トピックス**
- 5 参考資料**

連結業績概要

単位：億円

	2021年3月期	2020年3月期	増減	前期比
売上高	2,559	2,540	19	0.8%
営業利益	75	88	▲12	▲13.8%
経常利益	92	101	▲9	▲9.3%
当期純利益（※）	101	67	33	49.5%

※親会社株主に帰属する当期純利益

売上高

- <良化> 家庭用食品、糖化品、配合飼料等の販売数量の増加
- <悪化> 業務用小麦粉、プレミックス、コーンスターチ等の販売数量の減少

営業利益・経常利益

- <良化> 糖質事業の価格改定の進捗
- <悪化> 製粉事業、油脂食品事業の販売数量減少

当期純利益

- <良化> ポーソー油脂グループ子会社化による負ののれんの特別利益（34億円）の計上

新型コロナウイルスの決算への影響

事業への影響	
製粉事業	(+) 家庭用加工食品の需要拡大 (-) 外食、土産品、インバウンド、コンビニエンスストア向けの需要減少
油脂食品事業	(+) 家庭用食品の需要拡大、ECの拡大 (-) 外食、中食、インバウンド向けの需要減少
糖質事業	(-) ビール、飲料、食品、工業用全てにおいて需要減少
飼料事業	影響はほとんどない

2022年3月期もコロナの影響は続く見込み

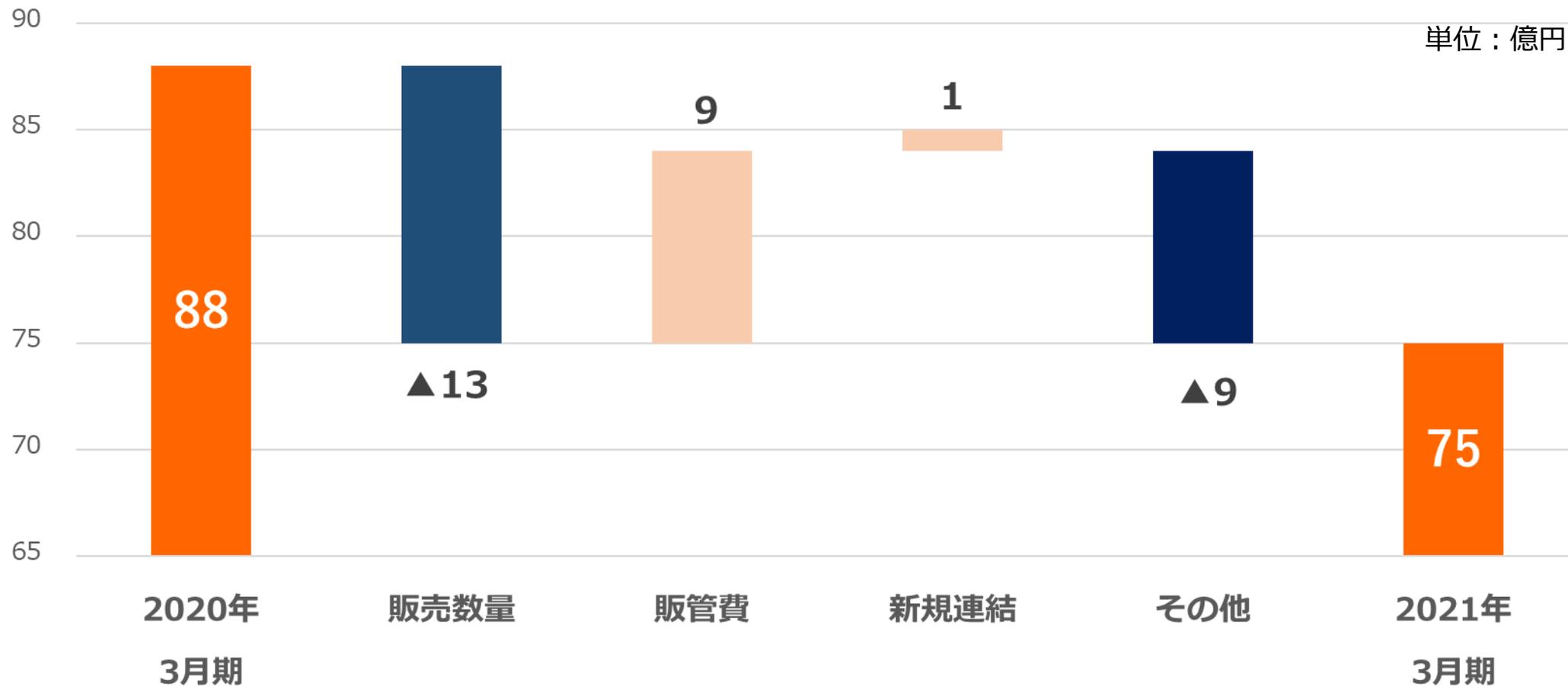
- ニューノーマル時代に寄り添った価値提案とコスト管理の徹底
- 焼成パン事業における収益構造改革
- グループ経営の強化と事業ポートフォリオの確立
- アグリビジネス（植物工場、大豆たん白）、海外事業の強化

連結営業利益の増減要因

2020年3月期
88億円

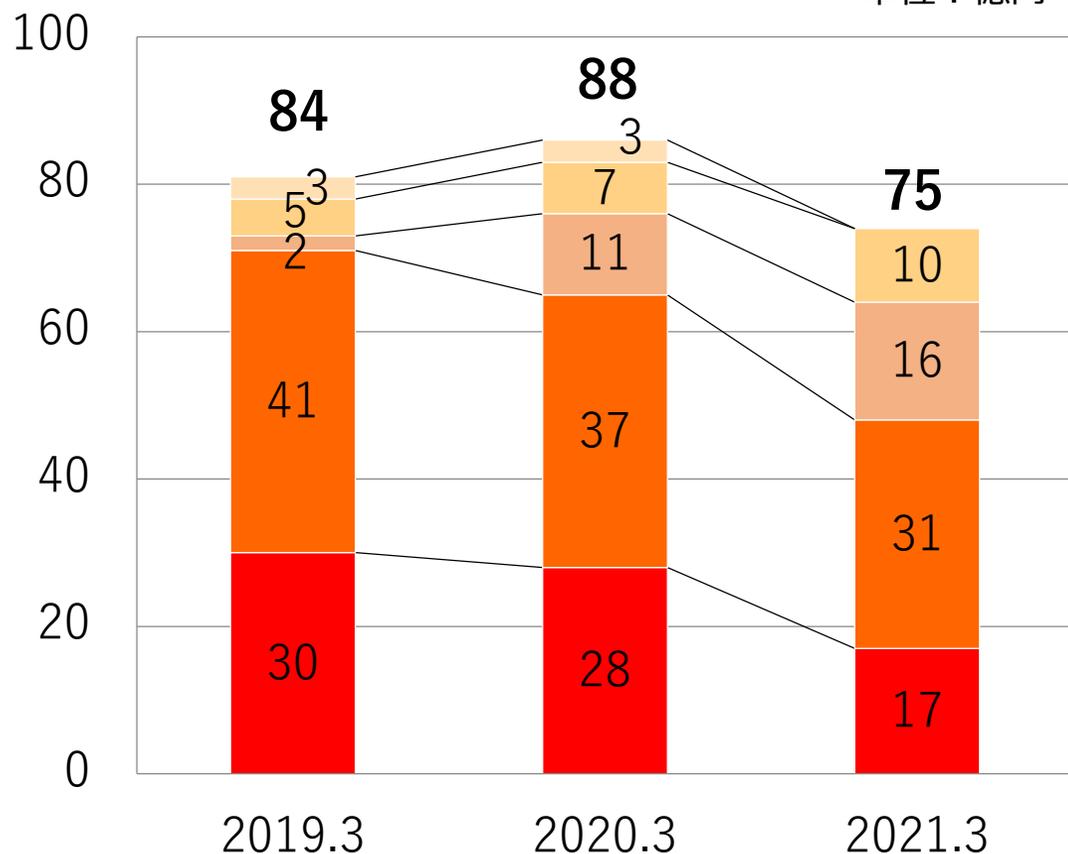
▲12億円

2021年3月期
75億円



セグメント別営業利益

単位：億円



■ 製粉

■ 油脂食品

■ 糖質

■ 飼料

■ その他・全社費用等

製粉事業

(前期比 ▲11億円 ▲40.4%)

外食、インバウンド、コンビニエンスストア向け等の販売数量の減少により減益

油脂食品事業

(前期比 ▲6億円 ▲16.6%)

家庭用は巣ごもり需要により好調でしたが、業務用の外食向け等の落ち込みや原料価格上昇により減益

糖質事業

(前期比 5億円 48.8%)

機能性製品の拡販や価格改定等により増益

飼料事業

(前期比 2億円 33.4%)

配合飼料の販売数量の増加や、配合飼料価格安定基金の費用負担が減少したことなどにより増益

連結貸借対照表の概要

2020年3月期
総資産 1,734億円

398億円

2021年3月期
総資産 2,133億円

流動資産 +139

現金及び預金	12
売上債権	38
棚卸資産	82

負債 +254

仕入債務	46
有利子負債	147

固定資産 +258

有形固定資産	144
無形固定資産	39
投資有価証券	74

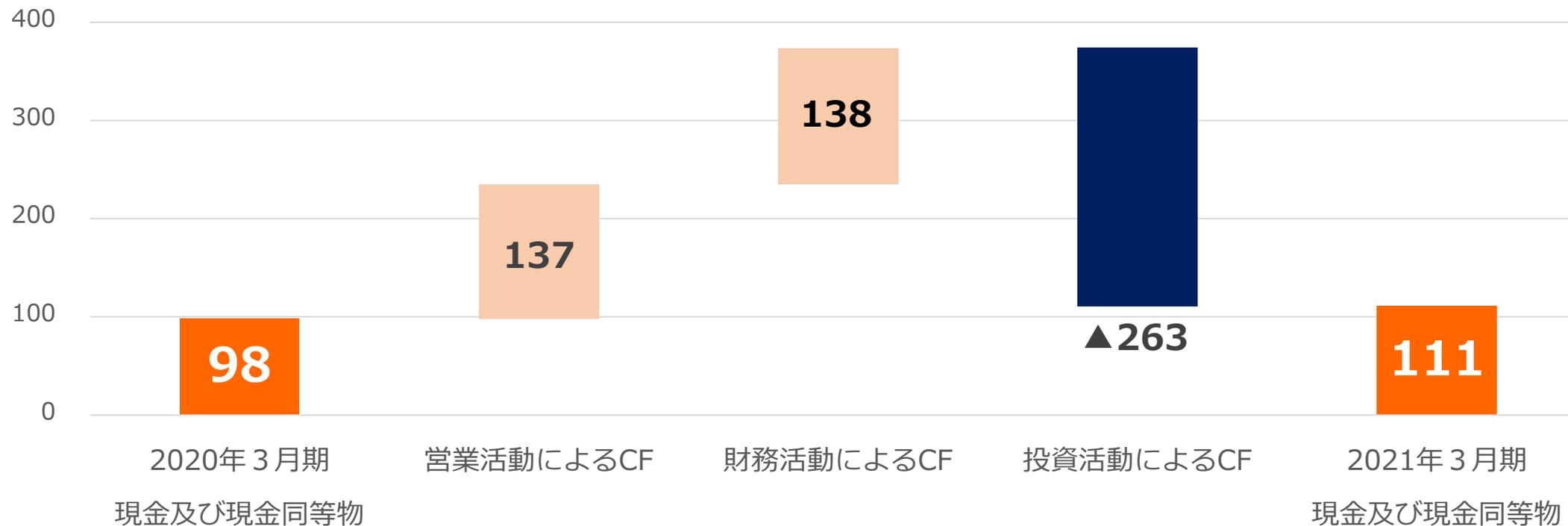
純資産 +143

当期純利益	101
▲20	配当金支払
自己株式	25

有利子負債	441億円	+147億円
自己資本比率	46.7%	▲2.5%

キャッシュ・フローの概要

単位：億円

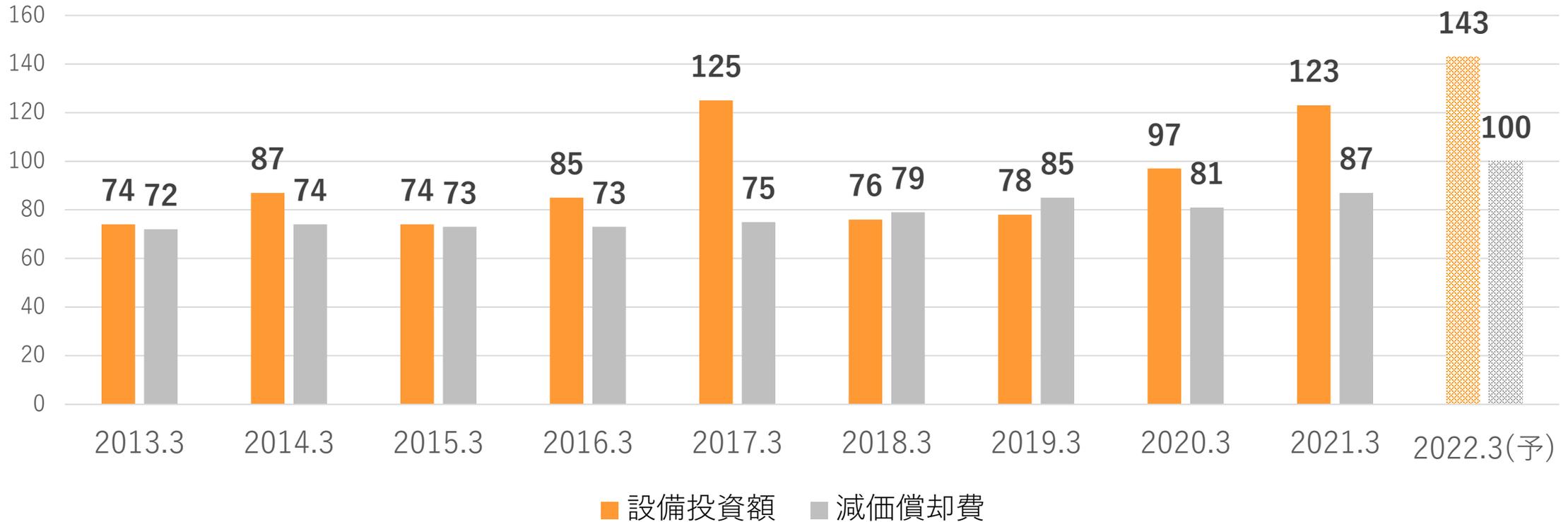


- 営業C F：税金等調整前当期純利益、減価償却費等による資金の増加
- 財務C F：社債の発行等による増加
- 投資C F：台湾2社の株式取得、有形固定資産の取得等による支出
- 現預金残高：期首比13億円の増加

設備投資額・減価償却費の推移

<連結ベース>

単位：億円



【設備投資】

- 船橋工場のプレミックス第二工場建設、鹿島工場の石炭燃料転換工事等を実施

【減価償却費】

- 植物工場、鹿島工場の新規設備稼働などにより、100億円を見込む

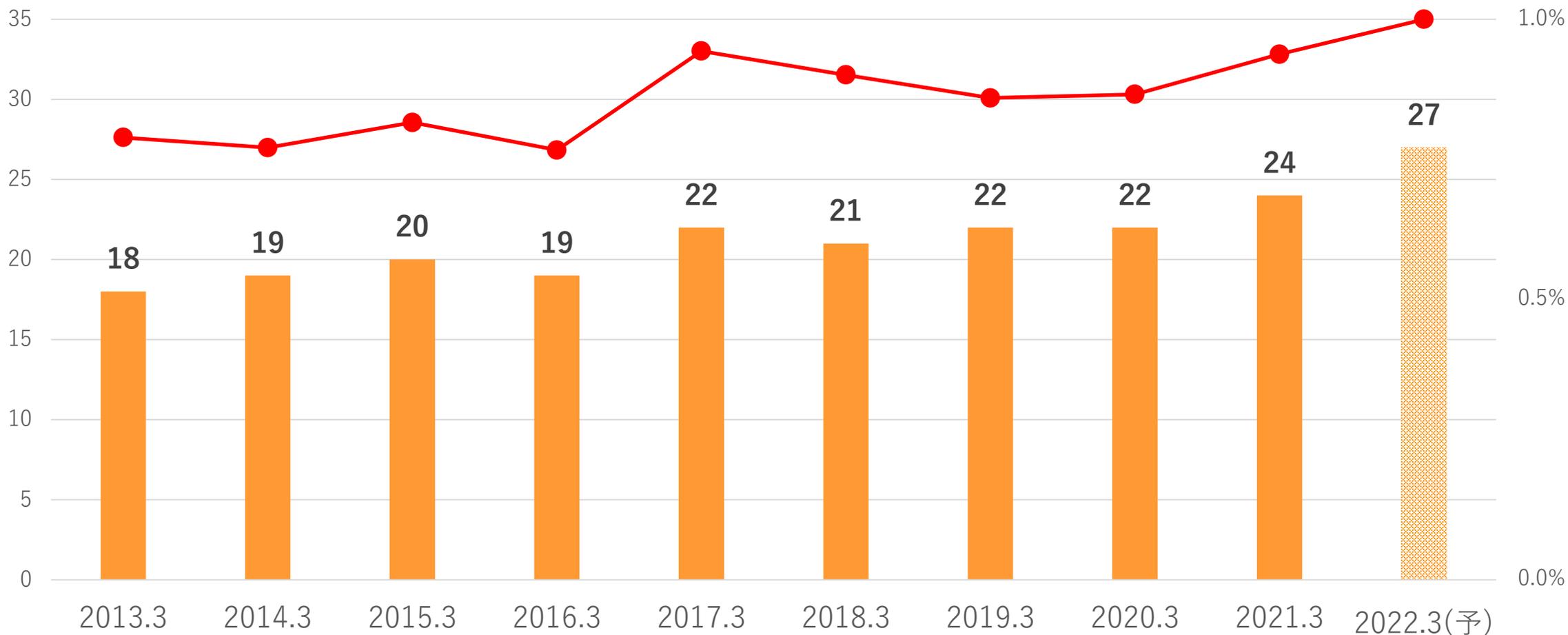
研究開発費の推移

<連結ベース>

単位：億円

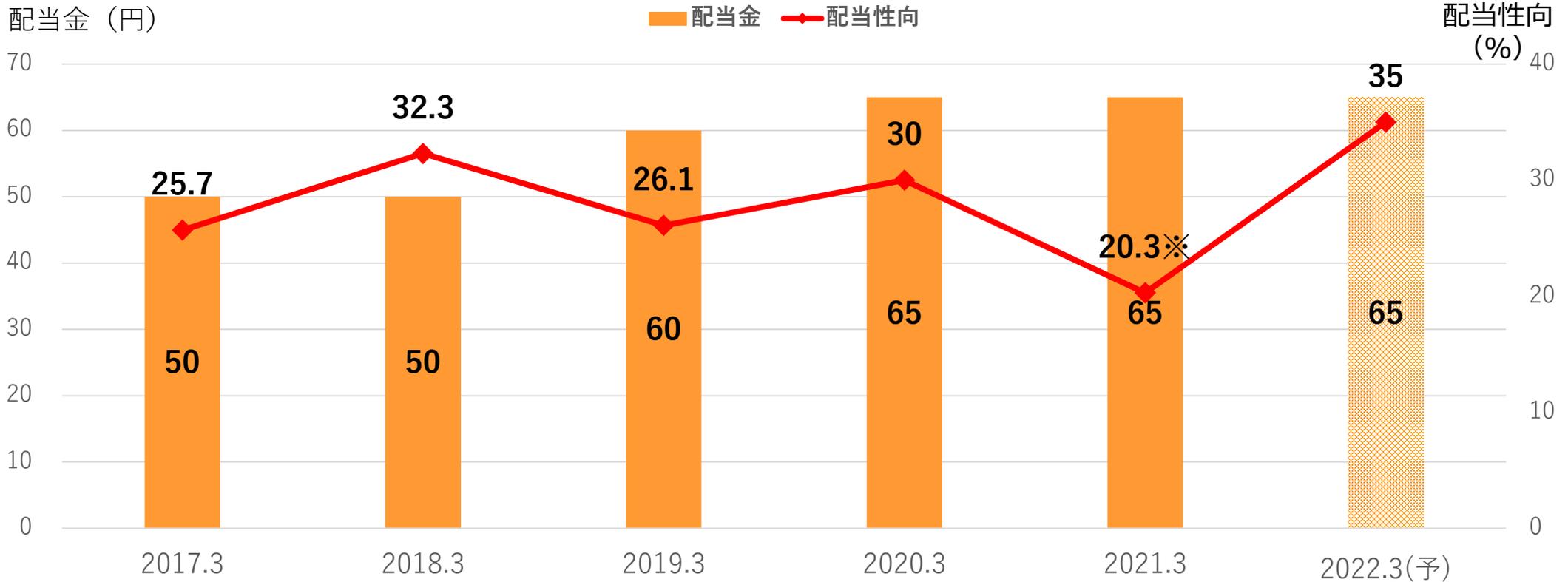
■ 研究開発費 ● 売上高比率（右目盛）

売上高比率



株主還元（配当）

1株あたりの配当金・配当性向の推移



※2021年3月期の配当性向は、負ののれん発生益による影響を含んでいます

配当性向

目標：30%程度

Agenda

- 1 2021年3月期 業績概要
- 2 2022年3月期 業績予想
- 3 中期経営計画20-22の進捗状況
- 4 トピックス
- 5 参考資料

2022年3月期 業績予想

単位：億円

	2022年3月期 (予想)	2021年3月期 (実績)
売上高	2,800	2,559
営業利益	79	75
経常利益	90	92
当期純利益 (※)	60	101

※親会社株主に帰属する当期純利益

売上高

- ・<良化> ポーソー油脂、サンエイ糖化の子会社化による通年での業績寄与
- ・<悪化> 新型コロナウイルス感染症の影響による販売数量減少
- ・<悪化> 「収益認識に関する会計基準」の適用

営業利益・経常利益

- ・<良化> ポーソー油脂、サンエイ糖化の子会社化による通年での業績寄与
- ・<悪化> 原料価格の上昇による影響

当期純利益

- ・<悪化> 2021年3月期に発生した、ポーソー油脂グループ子会社化に伴う負ののれんの特別利益(34億円)剥落

2022年3月期 セグメント別業績予想

単位：億円

	売上高			営業利益		
	2022.3 (予想)	2021.3 (実績)	増減	2022.3 (予想)	2021.3 (実績)	増減
製粉	785	743	42	32	17	16
油脂食品	994	885	109	21	31	▲10
糖質	470	366	104	14	16	▲2
飼料	500	516	▲16	9	10	▲1
その他	50	49	1	17	18	▲1
会社費用等				▲16	▲17	
合計	2,800	2,559	241	79	75	3

【セグメントについて】 ・2021年3月期より、セグメントは①製粉事業、②油脂食品事業、③糖質事業、④飼料事業、⑤その他に変更しています

セグメント別業績予想：製粉事業

【主な事業内容】



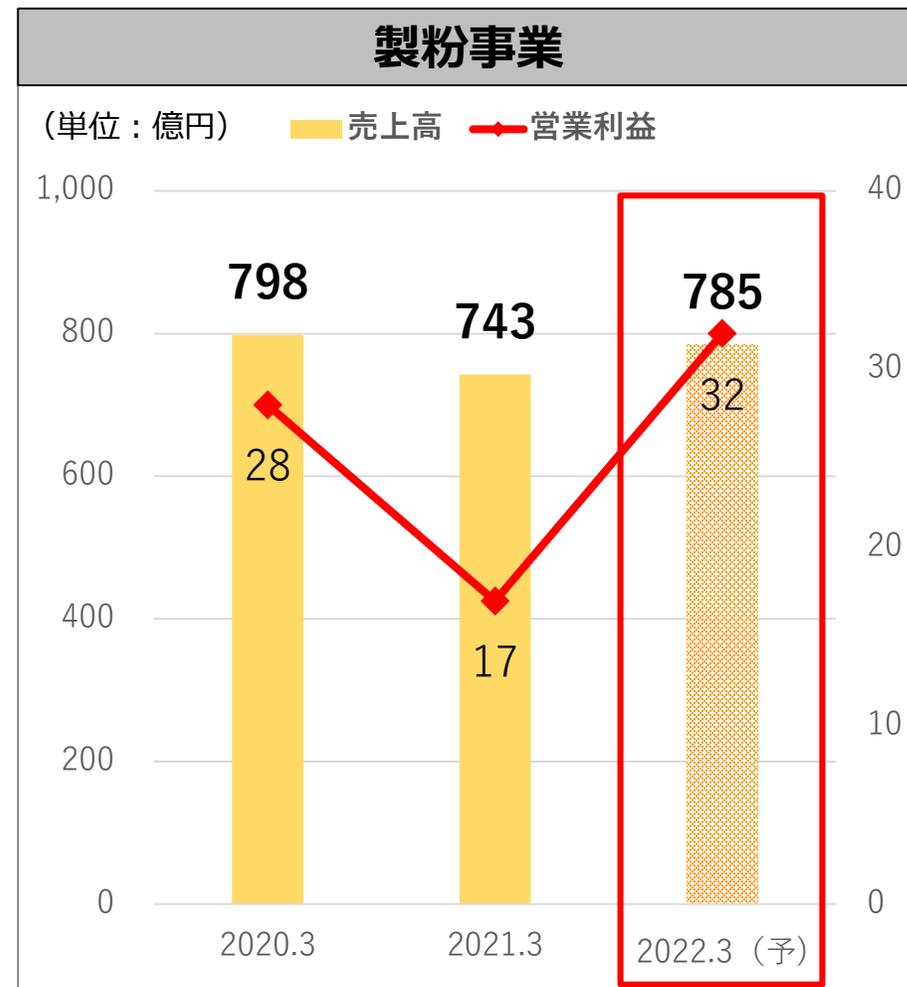
小麦粉、プレミックス、パン、ふすま

【新型コロナウイルス感染症の影響】

家庭で消費されるパン、麺用小麦粉の販売は好調であるが、
 外食、菓子、土産品、コンビニエンスストア向け等で
 消費される製品群は引き続き厳しい状況が見込まれる

【今期施策】

- 新たな生活様式の浸透とともに需要が創出されている、
 家庭内調理、テイクアウト、デリバリーなどの需要に対し、
 マーケット分析力を生かした「提案型営業」の更なる
 強化と拡販
- **焼成パン事業の収益構造改革の推進**
 ⇒生産性向上、商品開発力強化等
- 内外製粉との販売統合による、生産・販売の効率化推進
 (2021年10月1日より)



セグメント別業績予想：油脂食品事業

【主な事業内容】



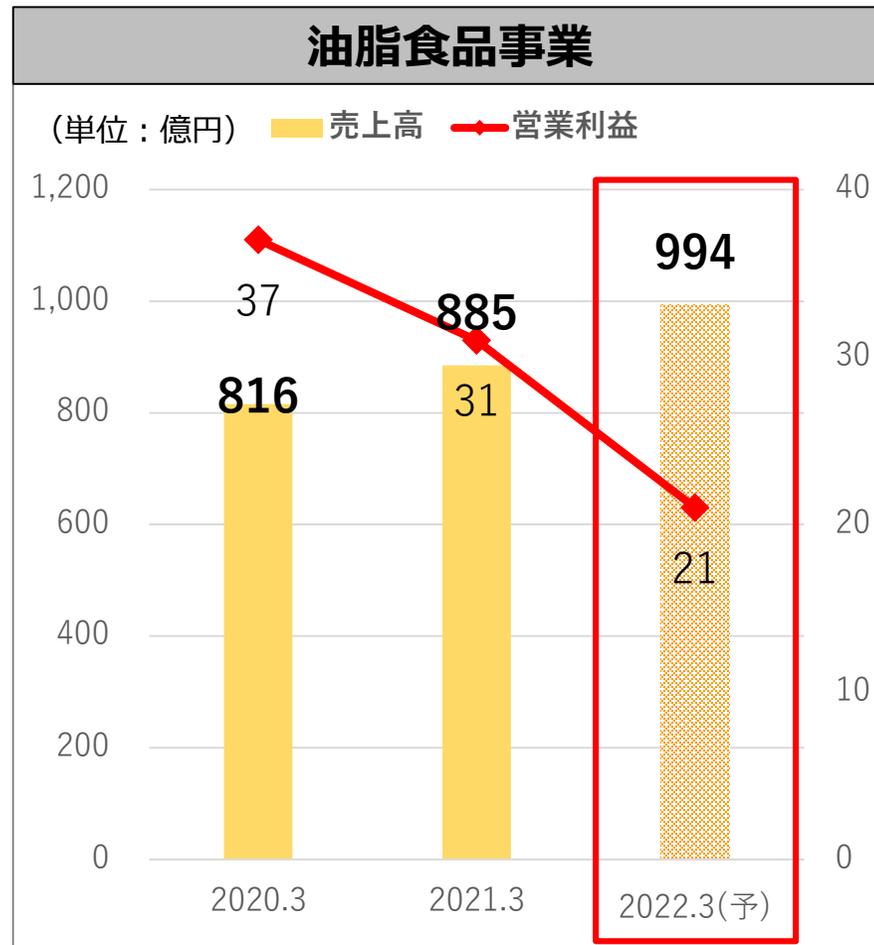
食用油、大豆たん白、プレミックス、パスタ、家庭用食品、冷凍食品

【新型コロナウイルス感染症の影響】

- 業務用：外食、宿泊施設、イベント向け等の油脂、プレミックス製品の販売減少
- 家庭用：内食需要の高まりにより、家庭用製品（食用油、プレミックス、パスタ等）は堅調

【今期施策】

- 業務用
 - ・「提案型営業」の強化、部門間シナジーの発揮
 - ・油脂製品の価格改定、ポーソー油脂子会社化によるコストシナジーの追求、販売管理の徹底
- 家庭用
 - ・天ぷら粉発売60周年企画の実施
 - ・手作り需要を捉えた、プレミックス、プレミアムオイル、パスタ等の販売促進



セグメント別業績予想：糖質事業

【主な事業内容】



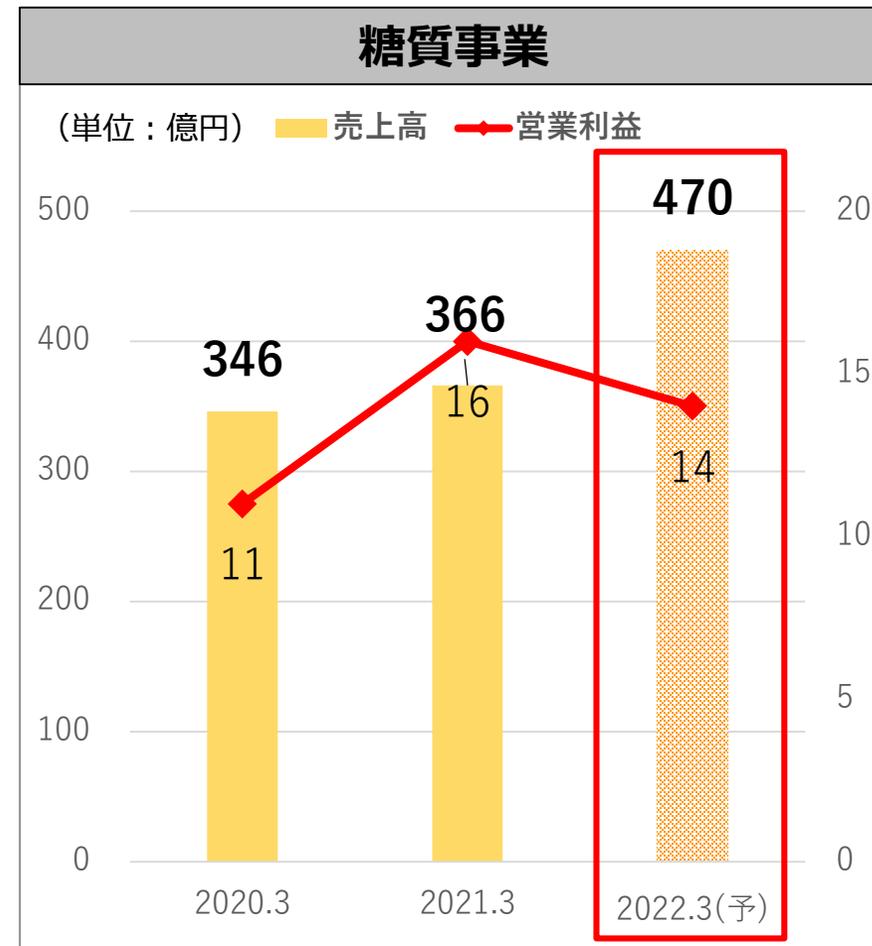
糖化製品、コーンスターチ、加工でん粉

【新型コロナウイルス感染症の影響】

飲料、ビール、土産菓子用向けのコーンスターチ、加工でん粉の
販売減少

【今期施策】

- 営業・研究・開発が一体となったB to Bマーケティングの強化
- 他事業と連携したシナジー提案を強化
- サンエイ糖化とのグループシナジーの早期実現と新たな需要創出を目指した差別化戦略の推進
- **3工場体制**による更なる取り組み強化
→昭和产业(鹿島)、敷島スターチ、サンエイ糖化



セグメント別業績予想：飼料事業

【主な事業内容】



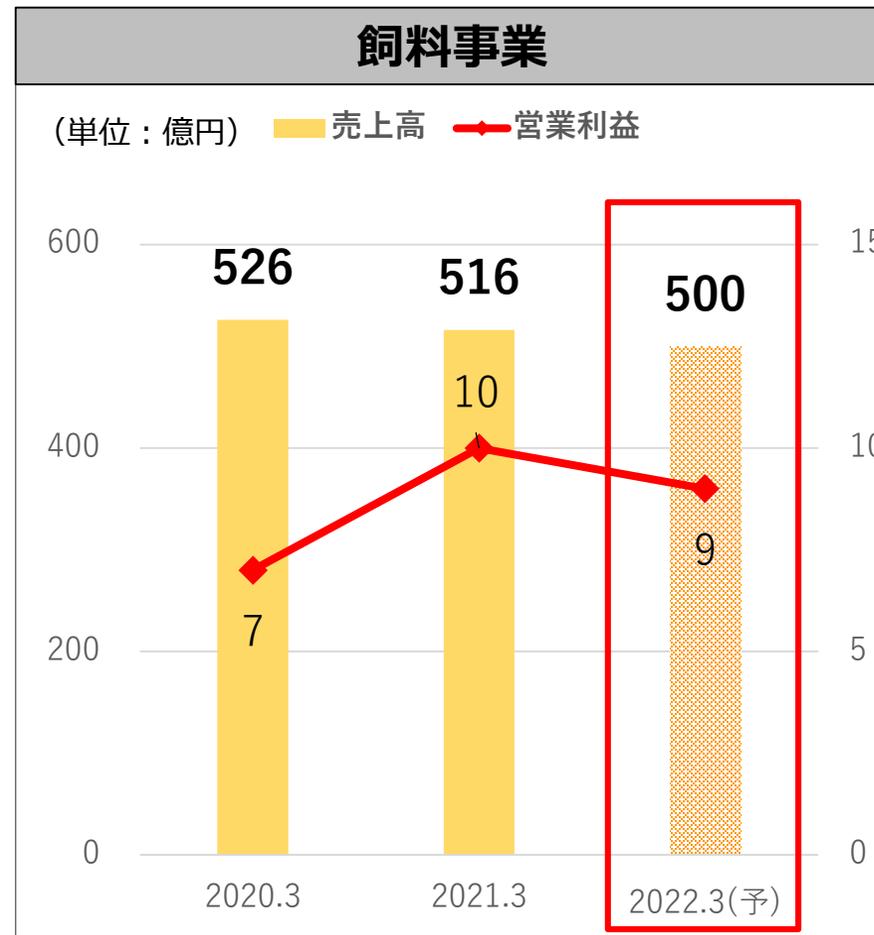
配合飼料、鶏卵および鶏卵加工品

【新型コロナウイルス感染症の影響】

- 配合飼料の販売については、大きな影響はない
- 畜産物については、外食用の需要減退の影響を受け減少

【今期施策】

- 複数原料を取り扱う自社の優位性を活かした、配合飼料の拡販と収益確保を図る
- 高付加価値商品である人工乳やオリゴ糖飼料のアプローチによる新規獲得化



- 1 2021年3月期 業績概要**
- 2 2022年3月期 業績予想**
- 3 中期経営計画20-22の進捗状況**
- 4 トピックス**
- 5 参考資料**

基本戦略 進捗状況

① 基盤事業の強化

- ・ サンエイ糖化との取り組み
- ・ コンビニエンスストア向けパンビジネスの収益構造改革
- ・ 船橋「プレミックス第二工場」新設（2022年6月操業予定）

② 事業領域の拡大

- ・ ボーソー油脂との取り組み
- ・ 大豆たん白販売強化
- ・ アグリビジネスへの挑戦
- ・ 海外事業の再強化

③ 社会的課題解決への貢献

- ・ ESG経営の推進
⇒CO2排出量削減、排水量原単位削減、食品ロスへの取り組み

④ プラットフォームの再構築

- ・ 社債発行
- ・ 新人事制度導入（2021年4月）
- ・ 組織改革（ソリューション営業部、穀物原料部新設）

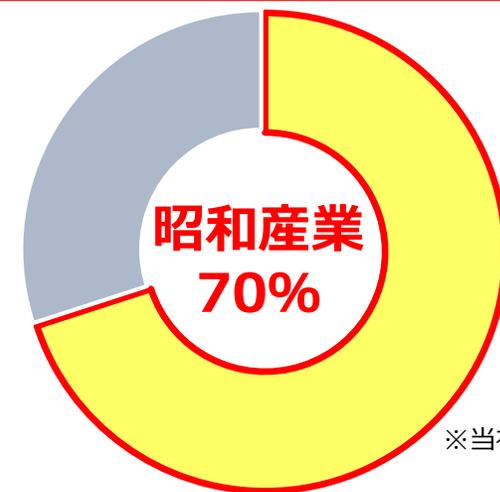
サンエイ糖化との取り組み

サンエイ糖化(株)子会社化により、「結晶ぶどう糖」シェア70%確立

- 「結晶ぶどう糖」の国内生産量シェアは医薬用と食品用合わせてトップクラスへ
- 両社間でプロジェクトを立ち上げ、事業間シナジーを追求

「結晶ぶどう糖」国内シェア※

プロジェクトによる取り組み	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定供給体制（BCP対策） ・ 生産効率の向上
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原料・資材購買コストの削減（スケールメリットの発揮）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発の融合と開発の加速
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両社の販売チャネルの活用 ・ マーケティング機能等の融合



※当社調べ

サンエイ糖化 2022年3月期予想

- 売上高 : 147億円
- 営業利益 : 8億円



【結晶ぶどう糖】

ボーソー油脂との取り組み

シナジー効果の最大化により、ボーソー油脂の黒字化を実現

- 当社グループに「米」という新たな油種を取り込むことで、競争力強化を図る
- 両社の持つ経営資源や知見を相互に活用し、両社における事業のシナジーを最大化させることで、ボーソー油脂黒字化を実現

1. 両社の商材と販路を活用したクロスセル

➤ 家庭用・業務用商品の販売強化

家庭用新商品「健康こめ油」発売に加え、
ボーソー油脂の業務用商品も販売

2. 物流・購買コスト削減

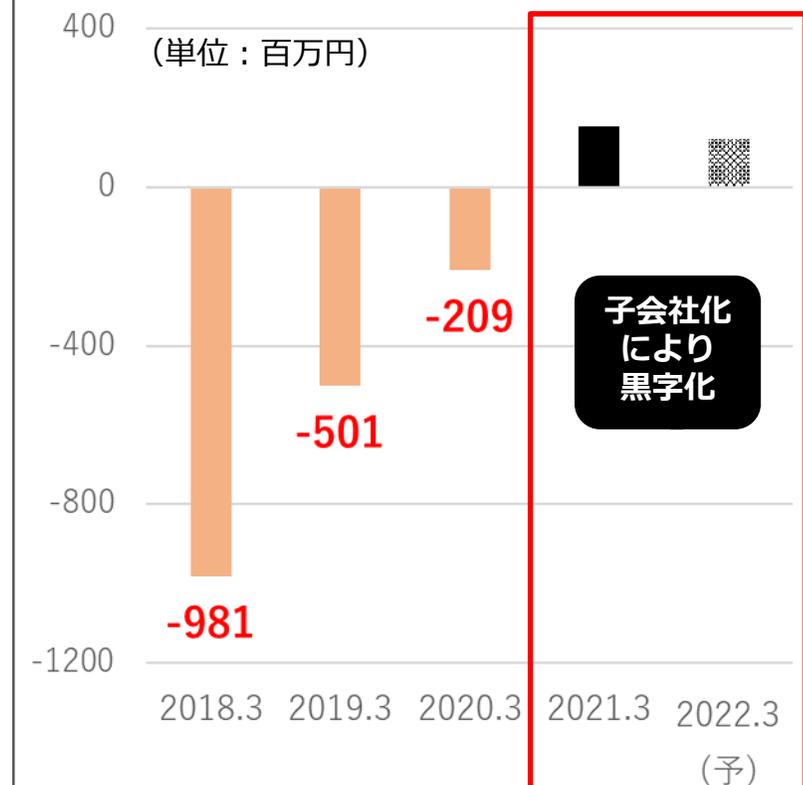
➤ 搾油原料、容器包材資材、工場副資材の共同調達の実施

油脂製品製造時に使用する資材、包材の共同購入

ボーソー油脂 2022年3月期予想

○売上高 : 131億円
○営業利益 : 2億円

ボーソー油脂 当期純利益推移

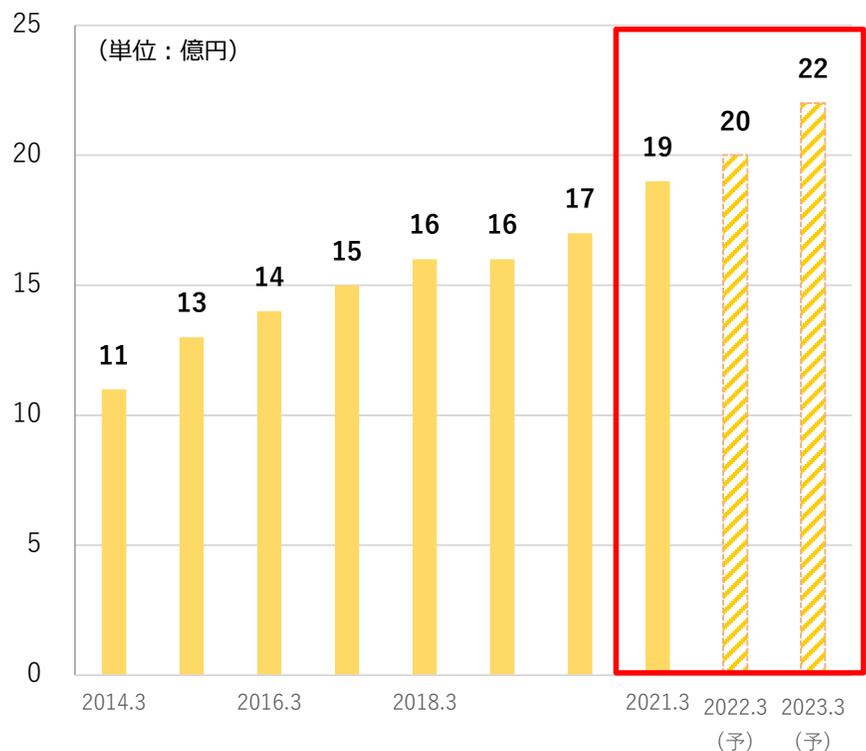


大豆たん白販売の強化

加工食品へのメニュー提案強化

- 業務用新商品「ミーテックスE-1」を発売 ⇒ 菓子用途への拡販も
- グループ会社 昭和冷凍食品にて、大豆たん白使用商品の開発強化
⇒業務用冷凍パン「SOYミートドーナツ」新発売（2021年4月）

業務用大豆たん白 売上高推移



業務用新商品 「ミーテックスE-1」



顆粒で製菓用途への
適性もあることが
特長の商品

昭和冷凍食品にて、
大豆たん白を使用した業務用冷凍食品を開発



新商品 「SOYミートドーナツ」2種



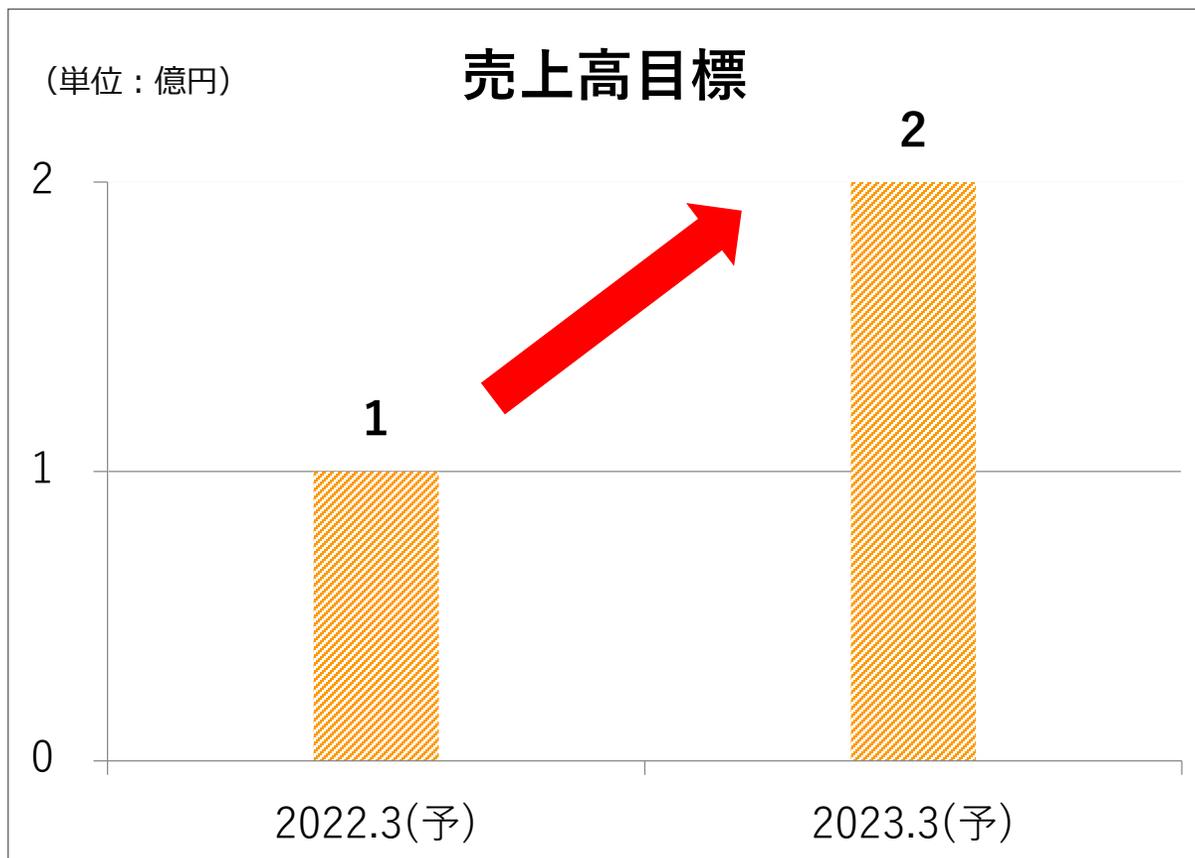
ラビオリ



ワンタン

植物工場実験プラント操業スタート

- 2021年3月より操業を開始し、主にコンビニエンスストア食品向けに販売
- 長期ビジョン 3rd Stage での本格生産に向け、アグリビジネスの育成を推進



2021年5月現在

7月からの工場フル生産に向け、
労働生産性の向上、販売先の確保を進める

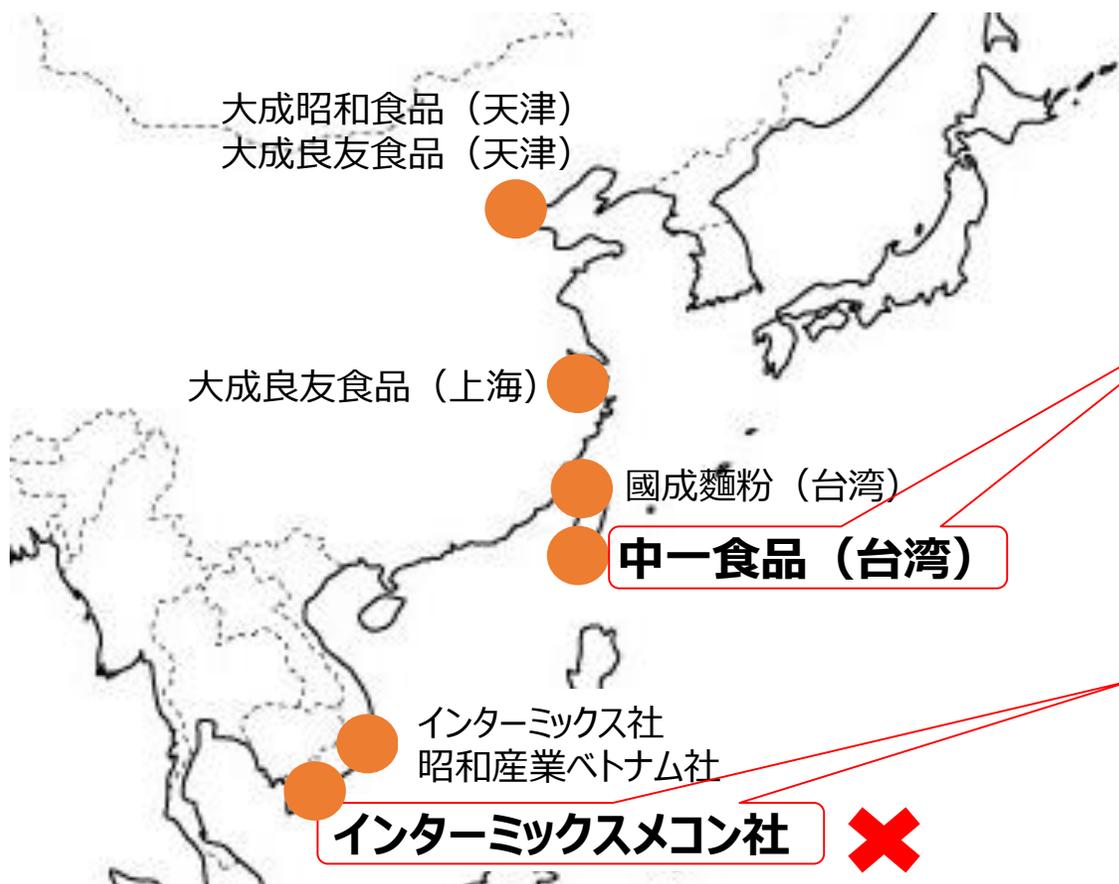


【グリーンソリューションファクトリー（略称GSF）内部】

海外事業の再強化

ベトナムにおける事業拡大は新たな事業展開を検討

- 【台湾】中一食品にて、洗卵選別工場建設予定
- 【ベトナム】インターミックスメコン社の合併解消を決定し、新たな事業展開を検討中



【台湾】洗卵選別工場の建設（彰化縣二林鎮）



【工場完成予想図】



【最新設備導入】

- ・最新設備を導入し、日本品質の鶏卵を製造（総投資額：約40億円）
- ・同業種工場の規模としては台湾最大級

【ベトナム】インターミックスメコン社の合併解消

【解消理由】

当初の計画から大幅な見直しが発生したことから、当社として、合理的な投資妥当性が見いだせず、合併解消を決定。

➡ **新たな事業展開を検討**

ESG経営の推進

主な方針・戦略

CO₂排出量の削減

- グループ全体 2030年度目標
排出量 **26%** 削減への挑戦
(対2013年度)

食品ロスの削減

- 昭和産業単体 2022年度目標
5%以上削減
(対2016年度～2018年度平均)

資源循環の強化

- 容器包装のプラスチック使用量削減
- 水の使用量原単位削減



【鹿島工場コージェネレーション設備】

- 鹿島工場コージェネレーション設備の燃料を「石炭」から「都市ガス」へシフト
⇒燃料転換工事を実施し、石炭使用を廃止（2021年9月完成予定）
- 食品ロス削減、資源循環強化については、今後グループ全体の数値目標設定を検討
- 政府目標（CO₂排出量46%削減）の実現に向け、「環境管理委員会」体制の抜本的見直し
⇒分科会設置により実効性を高め、目標実現に向け具体的な対策を検討

社債発行

**社債発行は、1997年（平成9年）以来、約23年ぶり
⇒合計で180億円の社債を発行**

年限	発行額	当社利率	J G B Spread
5年	70億円	0.19%	0.235%
7年	50億円	0.30%	0.290%
10年	60億円	0.38%	0.251%

【使用用途】

- ①サンエイ糖化の株式購入資金
（150億円）
- ②運転資金
（30億円）

Agenda

- 1 2021年3月期 業績概要**
- 2 2022年3月期 業績予想**
- 3 中期経営計画20-22の進捗状況**
- 4 トピックス**
- 5 参考資料**

プレミックス生産の強化

船橋「プレミックス第二工場」新設（2022年6月操業開始予定）

- 最新の自動化設備やIoTによる高い生産性を実現し、プレミックスの生産を強化する
- 労働力不足への対応や価格競争力の確保を図る
- 食品安全を徹底的に追求した工場設計とすることで、よりお客様にご満足いただける製品の提供を目指す



【2021年5月6日撮影】

2021年5月現在

➤ 鉄骨の建方工事実施中

投資額	56億円
建設面積	鉄骨造5階建 延床面積約11,000m ²
事業内容	プレミックスの製造・包装
生産能力	年間約28,000 t（1.8倍）
操業開始	2022年6月（予定）



【完成予想図】

ニューノーマル時代の調理は、「団らん」「楽しい」「新しい」がキーワードに

『まんまるおおきなホットケーキのもと』

フライパンで焼くおおきくまんまるした形で、絵本に出てくるような憧れの、懐かしいホットケーキが作れます。

絵本のように『親子の幸せな思い出』を作り、家庭の団らんの一部となるホットケーキを目指します。



『しあわせの生食パンミックス』

贅沢な素材を使用し、しあわせを感じてもらえる生食パンが作れます。

人気の高級食パン(生食パン)をご家庭で手軽にお楽しみいただけます。



『もう包まない！混ぜ餃子の素』

食卓の人気メニューである「餃子」を包まずひき肉と野菜を混ぜるだけで、簡単に作ることができる新感覚餃子「混ぜ餃子」用ミックスです。



「昭和天ぷら粉」発売60周年



「昭和天ぷら粉」60周年企画を通して、天ぷらのおいしさを発信

純金が当たる！発売60周年キャンペーン
2021年3月1日（月）～5月31日（月）

「昭和天ぷら粉」新CM 全国放映中



天ぷらレシピコンテスト実施

天ぷら粉レシピ&レシピ動画配信
～アウトドアレシピ～

社内認定制度
「SHOWAマイスター（天ぷら）」

●対象：役員を含む全社員



かんたん串天ぷら

<https://youtu.be/XEF3UFHc43M>



天ぷら粉でつくるホットビスケット

https://youtu.be/Ez_ieLc1VA

階級	目的	認定者数
初級	楽しむ	632名
中級	知る	598名
上級	活かす	準備中

- 1 2021年3月期 業績概要**
- 2 2022年3月期 業績予想**
- 3 中期経営計画20-22の進捗状況**
- 4 トピックス**
- 5 参考資料**

長期ビジョン

ありたい姿（長期ビジョン）

SHOWA Next Stage for 2025

〔期間〕 2017年度～2025年度（9年間）

〔目標〕 連結売上高 4,000億円、連結経常利益200億円

長期ビジョンの実現に向け、
中期経営計画を3次にわたり展開



基本コンセプト

SHOWA New Value Creation

～SHOWAだからできる新たな価値とは～

〔期間〕 2020年度～2022年度（3年間）

基本方針

確立

基本戦略

- ① 基盤事業の強化
- ② 事業領域の拡大
- ③ 社会的課題解決への貢献
- ④ プラットフォームの再構築
- ⑤ ステークホルダーエンゲージメントの強化

数値目標

連結売上高	2,800億円
連結経常利益	130億円
ROE	9.0%以上

売上高と利益の推移

単位：百万円

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	245,111	247,823	233,206	233,166	255,905	254,017	255,997
営業利益	7,142	7,951	8,786	6,556	8,443	8,808	7,594
経常利益	8,108	8,977	9,514	7,737	9,786	10,160	9,213
当期純利益	5,287	5,941	6,167	4,893	7,254	6,764	10,115

セグメント別実績の推移

単位：百万円

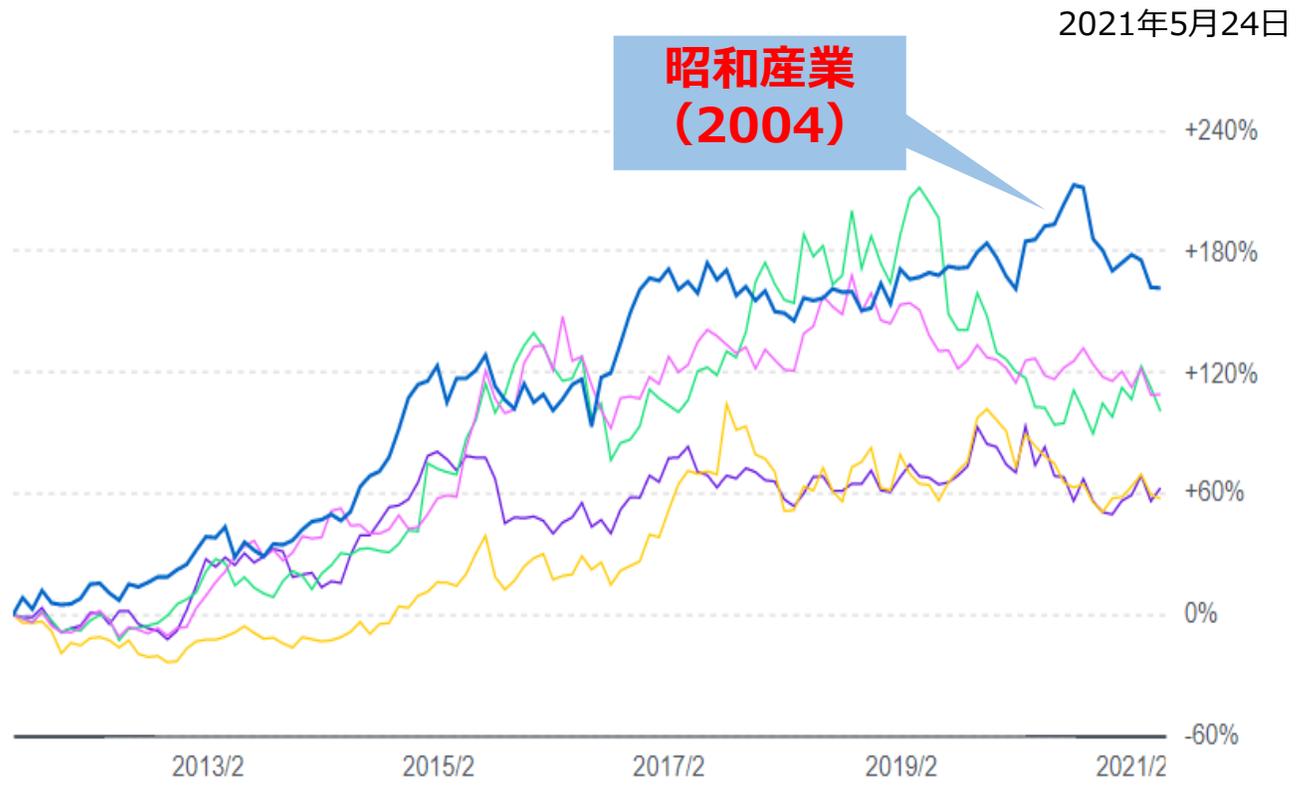
<製粉>	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	62,978	67,000	65,481	65,006	83,148	83,190	74,315
営業利益	2,121	2,956	2,933	2,376	3,009	2,893	1,704
<油脂食品>	2015年3月期 ※	2016年3月期 ※	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	80,461	80,981	76,968	77,571	80,487	78,273	88,533
営業利益	2,033	1,317	2,598	2,185	4,195	3,705	3,118
<糖質>	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	35,297	35,085	32,647	32,836	33,824	34,685	36,607
営業利益	2,166	2,632	2,443	1,040	289	1,127	1,677
<飼料>	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	61,213	59,694	53,106	52,607	53,265	52,605	51,620
営業利益	339	481	624	619	573	762	1,017

※1 油脂事業と食品事業を別々に開示していたものを合算したもの

※2 2021年3月期より、製粉事業と油脂食品事業の事業内容の区分を一部変更しております

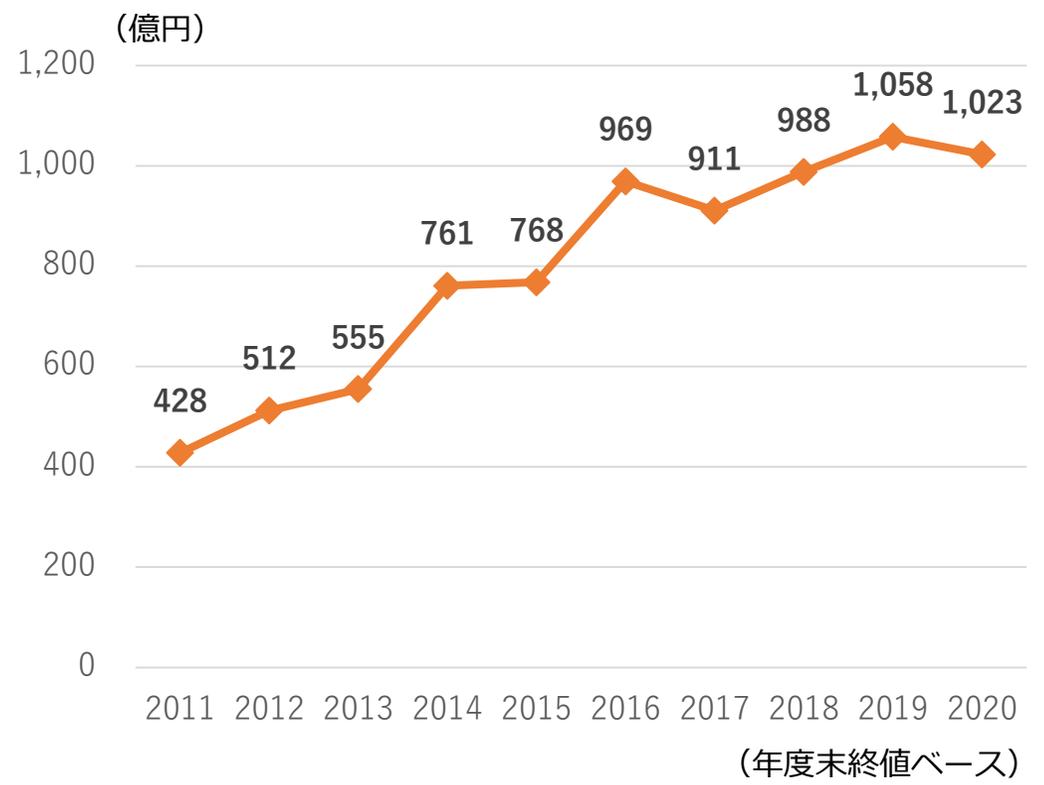
株価と時価総額の推移

株価の推移



出典：Yahoo! ファイナンス

時価総額の推移



※当社調べ



穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。